



「クログ」の「ペーパー」



paperboy&co.♡



Puboo 

ゴローンゴロン ゴローンゴロン

あるひ、ハリネズミはいつものように、ひとりでクリごっこをしていました。

ゴローンゴロン ゴローンゴロン

そのひはとってもてんきがよかったので、

ハリネズミは、ついつい、まるまったまま、いねむりをしてしまいました。

そこに、クマのおじさんが通りかかりました。

「おお、こりゃまた大きなクリだなあ」

おじさんはねむりこけたハリネズミをひろいあげ、

しょっていたカゴにぽーんと入れてしまいました。



おじさんのおうちにかえってくると、
いつものようにこどもたちがあそびにきていました。

「みんな、とってもおおきなクリをみつけたぞ」
ワイ　ワイ
こどもたちはおじさんのまわりにあつまります。

「じゃあ、さっそくたべようね」



「わーーーーー！
たべちゃいやだよ。
ぼくクリじゃないよ！」
あわてたハリネズミがとびだしました。



きゅうにうごきだしたハリネズミのトゲにおどろいたこどもたちは
おこりだしてしまいました。

「いたーい」「なんだこいつー」「あっちいけよー」

みんなのおおきなこえにハリネズミはもっとトゲをだして、
へやのすみっこでまるまりました。

「だ・・・だから
ボクはひとりでいるのが
すきなんだ・・・」



「なんだ、キミはハリネズミだったのか

ごめんよ。あまりにじょうずにクリのまねっこをしていたからまちがえてしまったよ。

さあ、こっちにおいで。キミもいっしょに本を読もうじゃないか」

そのやさしいこえに、ハリネズミはまるまったからだをゆっくり広げながら、

おじさんのおおきなほんだなをながめました。そしておどろきました。

「わー！こんなにたくさんのほん

ボク、みたことないや

これ、ぜんぶよんでいいの？」

「もちろんだよ。」



ハリネズミは、むちゅうでほんをよみました。

ひとりでほんをよんでいれば、ハリネズミはしあわせでした。

でも、とってもスイートなこいのものがたりや、
ぽかぽかしたかぞくのおはなしをよんだときは、
ちょっとさみしくて、なみだがでてきてしまいました。

「おじさん、どうしてほんをよむとなみだがでてくるんだろう」

「それはほんにはたくさんのココロがつまっているからだよ」

「こころ？それはボクにもあるの？」

「キミが、みんなをきずつけない、というきもちはココロだよ。
ココロは目には見えないから、たくさんの人が本にかくんだよ」

「ボクのココロもほんにかくことができるかな？」



ハリネズミはそのひから、いっしょうけんめい、ほんをかきました。
なんだかとてもワクワクしました。

ウサギさんのシッポを、ふわふわまるくてかわいいなとおもっていること。
くまくんがフンフンうたっているはなうたがとってもだいすきなこと。
おじさんのふかふかのおなかにエイッ！とダイビングしてみたいこと。

ほんとうは、みんなとなかよくあそびたいこと。

ハリネズミのほんのなかにはとてもたくさんのココロがこもっていました。



おうちのまえでおじさんがほんをよんでいると、
とってもひさしぶりにハリネズミがあらわれました。

ハリネズミはおじさんがみたことのないほんをもっていました。

「ボクのココロ伝わるかな？」

ほんをうけとったおじさんは、にっこりわらい、ゆっくりとページをめくりました。
ながいことおじさんはそのほんにむちゅうになりました。
ときに、おなかをかかえてわらい、ときに、しずかに、しずかに、なきました。

そして、ふうっとやさしいためいきをついたあと、
「さあ、みんなによんでおあげ」
とハリネズミにほんをわたしました。



ハリネズミがふりかえると、
もうソワソワしたこどもたちが、
ハリネズミのまわりにあつまってきていました。



